

## オールラウンドミニバン『デリカ D:5』と、軽ハイトワゴン『eK クロス』 『eK ワゴン』が「2019 年度グッドデザイン賞」を受賞

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役 CEO：加藤 隆雄、以下三菱自動車）の、オールラウンドミニバン『デリカ D:5』と、軽ハイトワゴン『eK クロス』『eK ワゴン』が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「グッドデザイン賞<sup>\*1</sup>」を受賞しました。

『デリカ D:5』は、三菱自動車のフロントデザインコンセプト「ダイナミックシールド」と機能的かつ特徴的なフロントランプを採用し、プレゼンテーション性を高め、アクティブで洗練されたデザインを特徴としています。『eK クロス』においても「ダイナミックシールド」を採用し、アクティブかつ機能的なデザインとし、存在感のある SUV テイストを特徴としています。『eK ワゴン』は軽ハイトワゴンのスタンダードモデルとして、張りのある曲面で全体を構成し、生き活きとした躍動感に加え、可愛らしく上質なデザインとしました。

今回の受賞に際し『デリカ D:5』は、「基本設計は先代モデルを踏襲するものの、それを感じさせない内外装デザインの進化を達成したことを評価したい。時代分の安全性の強化とともに、ブランドとしての統一感を醸成するフロントマスクのデザインも採用しており、オーナーの満足度を高めるモデルチェンジを実現している。押し出しの強いフロントマスクが目が行きがちだが、先代から継承するスタンスの良さが、そのインパクトをしっかりと支えており、優れた基本設計であったことをうかがわせる。」と審査委員に高く評価されました。

また『eK クロス』『eK ワゴン』は、「この 2 つのモデルは、内外装の一部変更という限定的条件のもとで最大限の差異を感じさせるアピランス（見栄え）を達成している。顧客の多様化と自動車への興味が薄れている時代に於いて、開発投資を抑えつつデザインの力でバラエティーの提供に挑戦している点を評価した。特に『eK クロス』は、フロントフェイスの過多気味なデザイン要素をコンパクトなパッケージの中に巧くレイアウトしている。日本特有の軽自動車カテゴリーに新しいデザインの風を興しているといえよう。」と高く評価されました。

\*1…グッドデザイン賞は、1957 年創設のグッドデザイン商品選定制度を発端とする、日本唯一の総合的なデザイン評価・推奨の運動です。これまで 60 年以上にわたり、デザインを通じて日本の産業や生活文化を向上させる運動として展開され、のべ受賞件数は 45,000 件以上にのぼります。今日では国内外の多くの企業や団体などが参加する世界的なデザイン賞で、グッドデザイン賞受賞のシンボルである「G マーク」は、すぐれたデザインを示すシンボルとして広く親しまれています。



デリカ D:5 / デリカ D:5 URBAN GEAR



eK ワゴン / eK クロス

以上